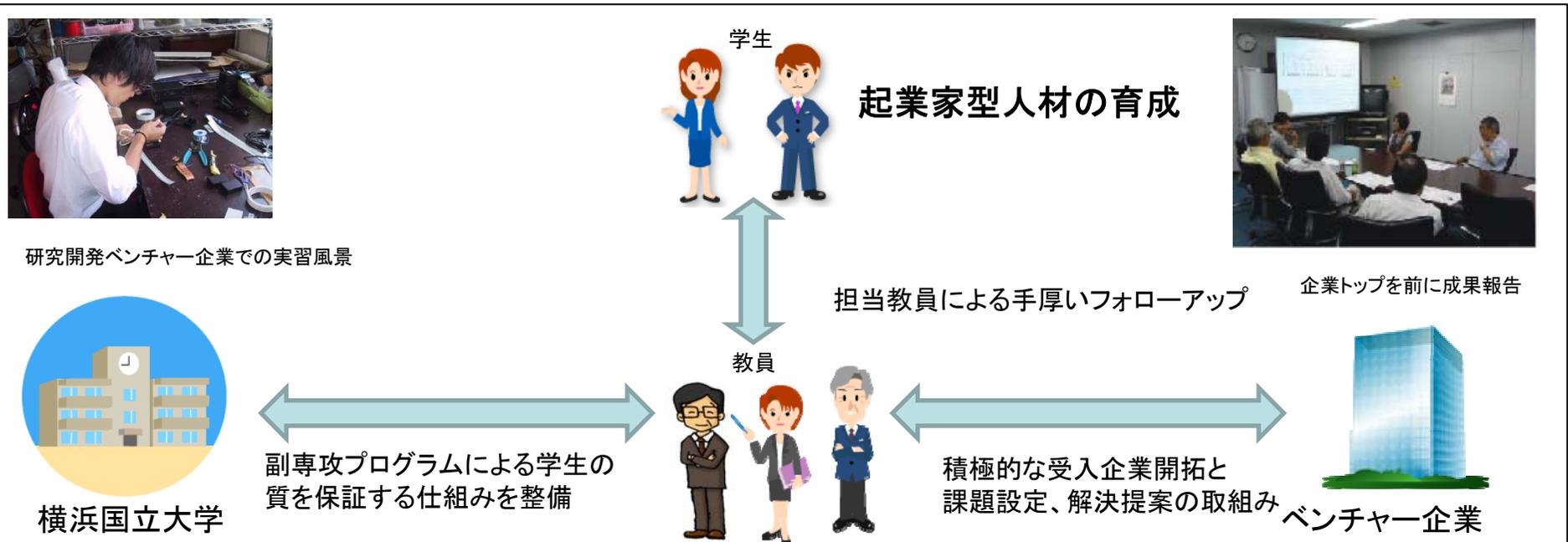


横浜国立大学 横浜発研究開発ベンチャーインターンシップ

【取組概要】

深い知的学識を発揮し社会や産業のニーズに対応して新しいことに挑戦する精神と問題発見解決能力を備えた起業家型人材を、本学周辺に立地する研究開発型ベンチャー企業における課題解決を通じて実現する新たなコンセプトのインターンシップ。

主に博士課程前期1年を対象とし、研究開発型ベンチャー企業への派遣を中心とする。事業体験のほか企業が抱える研究開発課題などに学生が研究室などで培った知識・技術をもって取組むといった内容のインターンシップを行うことを特長としている。



【成果等】担当教員5名による手厚いフォローアップにより、ベンチャー企業での実習を中心に学生がインターンシップを実施し、イノベティブな起業家型人材を育成し、4単位(新技術と起業Ⅱ)を授与した。平成20年度から講義「新技術と起業」(2単位)を合わせて修得した学生には副専攻プログラム「ベンチャー・ビジネス」修得を成績履修台帳に特記し、学生の質を保證する仕組みとした。平成22年度以降は「横浜発ベンチャーインターンシップ」と改称し社会系を含む包括的ベンチャーインターンシップとして事業を継続している。参加学生数(副専攻プログラム修了者数):平成17年度6名、平成18年度12名、平成19年度13名、平成20年度23名(22名)、平成21年度17名(13名)、平成22年度20名(15名)

産学連携による実践型人材育成事業 ー長期インターンシップ・プログラム開発ー
最終評価結果

大 学 名	横浜国立大学
教育プロジェクト名称	横浜発研究開発ベンチャーインターンシップ
事業責任者	横浜国立大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー所長 周佐 喜和

事業概要

深い知的学識を発揮し社会や産業のニーズに対応して新しいことに挑戦する精神と問題発見解決能力を備えた起業家型人材を、本学周辺に立地する研究開発型ベンチャー企業における課題解決を通じて実現する新たなコンセプトのインターンシップ。

主に博士課程前期1年を対象とし、研究開発型ベンチャー企業への派遣を中心とする。事業体験のほか企業が抱える研究開発課題などに学生が研究室などで培った知識・技術をもって取組むといった内容のインターンシップを行うことを特長としている。



研究開発ベンチャー企業での実習風景



起業家型人材の育成



企業トップを前に成果報告

担当教員による手厚いフォローアップ



横浜国立大学

副専攻プログラムによる学生の質を保証する仕組みを整備



教員

積極的な受入企業開拓と課題設定、解決提案の取組み



ベンチャー企業

最終評価結果

(総合評価) A: 所期の計画と同等の取組が行われた

コメント

《優れた点》

1. 本プログラムはベンチャー育成という本来大学の不得手とする領域での人材育成である。研究開発型ベンチャーの多い地域性とKSPという起業支援組織の存在が充分生かされ、産・学・学生間での有機的な協力関係がプラスとして働いている。そのことが大学の全面的な支援とその後の発展を生んだと言ってもよい。本プログラムは「ベンチャー型インターンシップ」という新しい領域でモデルケースを確立したと言える。
2. 平成20年度のインターンシップ修了者の内3名は、起業準備のためにインキュベーション施設に入居した。また、履修後に積極的に各種ビジネスコンテストに参加する例も見られ、企業家育成のプログラムとして、学生・企業双方から認められるレベルに達している。毎年20人規模の実施をコンスタントに行い、副専攻ベンチャー・ビジネスを授与する「派遣のモデル」となっている。
3. 地域の教育場がしっかりしており、今後の進展が期待できる。

《改善を要する点》

1. プログラムのユニークさについて、具体的な事例と効果をもとに示すことが望まれる。また、起業家を熱望しない他の学生にも波及させるための施策が欲しい。
2. マッチングでの三者面談に指導教員も参加させる施策を取って欲しい。